

洩矢繪草子

洩矢繪草子

2013
Appetite:
Presents



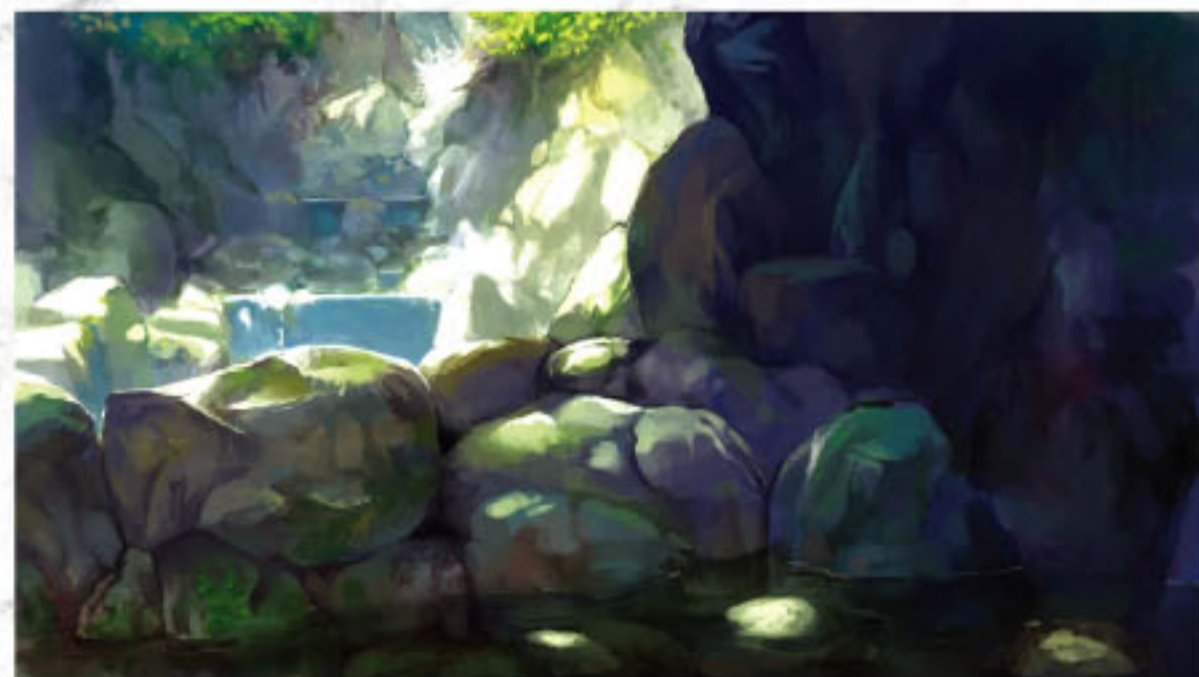
洩矢繪草子

これから出会うであろうこの世界が
どんな姿で在ろうとも
私はまだ あたたく穏やかな幸せに目を瞑る事しか出来ない



春香美の溪流

風景の中に転がっている石や岩をよく観察してみると、色々な表情が見えてきます。色、形、大きさ、質感。小石一つ取ってみても、目に余る情報量が詰め込まれています。彼らを絵に起こす際に必要なのは、その沢山の情報の中から重要な要素だけを掏り取る事だと思っています。これは自然物を“ある程度それっぽく描くのは簡単だけど、完璧に捉えるのは難しい”と言うよくあるアレだと思っています。もっと観察眼を磨いて重要な要素を見抜けるようになりたいものです。



胎動



蓬沢

この絵は去年の九月上旬頃に描いた物です。この時期はグレーがかった湿り気のある絵を好んで描いていました。白く薄く空気に溶け込んでいくような景色はある種、神秘的な雰囲気を感じるのでも好きですね。高校時代の通学路は田んぼ道が多く、雨の降った翌日の朝は全方向ぼや〜と霧がかかっていて無駄にテンションが上がったものです。

季は春
雪解け花咲き 水音鈴と奏で
風光今世に明らかに流るる
其の二人仲睦まじく
来の花を今待つ
神聞く神祀る守矢の血脈
譬え座す命運が頬を引き裂けど
譬え持つ掌が削げ落ちようとも
譬え世に子が一人啼こうとも



儀式

私の母は明るく、やさしい人だった。珍しい透き通るような翠をして、私と同じ年端の子供たちの母親よりも別段美しい事が私は自慢だった。

ある日の黄昏時。母は私を離れに連れ、薬を手渡して今日からはこの薬を毎日飲まなくてはならないと言った。薬草と木の実を挽いた秘薬だと言うそれを一口舐めてみたがとても苦く飲めたものではない。

苦くて辛いとは思いますが、これもあなたのためなの。私たちもこうして子供の頃は我慢して飲んだのよ。

母はこれをこの地に伝わる儀式のようなものであると言った。私は皆がそうしているのならば、と意を決め涙と共にその緑の粉を飲み込む。苦い。

母は私が薬を飲み込むのを見届けると約束、この薬の事は誰にも言ってはならないよ。と私の頭を撫ぜた。

面影

あれ？線画取ったほうが早いし楽じゃね？という手の平返しを決めるに至った絵です。線画→下地→乗算オーバーレイ等のレイヤー効果のなんと手っ取り早いことですよ。



秘術「諏訪薬」

現存する書籍には名称のみ存在し、詳しい内容や効用などは不明。一説によれば穢れを体内に孕む事のないように弱毒性の植物や種子を挽いたものを服用して体内を浄化するものであったという。避妊薬としての意味合いも強く、身体をあえて不完全な状態にすることで神聖性を保つ、という意味合いもあったらしい。

いいかい、この洩矢には昔から私たちを守ってくれている二人の神様がいるんだよ。

私が五つを数えた頃、父は私にそう言った。私は諏訪子と名付けられ二人に育てられる。

その神様のお陰で私たちは今日も元気に仕事が出来て、ご飯を食べて夜に寝て、また明日も日を拝むことができるんだよ。

この地には二柱の神が在った。天地を司る神。私にはまだ何の事なのか分からない。

だからこそこうして毎年神様達に捧げ物を用意して、いつも私たちをお守り下さりありがとうございます。これからも私たちをお守り下さいとお願いをするんだ。

それよりも夏風と父の膝が心地よく、話は耳を通り抜けていく。

国の人たちの代表として神様にお願いののがお父さんたちとお前の仕事なんだよ。

私は私の夢を描いていた。

御頭祭

狩猟した鹿の首や兎の串刺しなどをミシャグジ神に捧げ五穀豊穡を願う神事です。七十五頭もの鹿の首を用意するのですが、そのうちの一头が必ず耳の裂けた雄鹿であるという逸話があります。これは今現在の御頭祭にも引き継がれ、剝製を使うようになった今でもその内の一つは耳の裂けた雄鹿の形をしています。

諏訪湖

血肉は腐り落ちたけれども、どこか神々しい感じのキャラ立てをしたい!と思いながら描いていた記憶があります。水の中にいるせいで藻がくっついた変な人みたいになってる気がしないでもないですが。身体が腐っていく表現といえばモノノケ姫を最初に思い浮かべます。乙事主が次第に朽ち果てていく様を見てトラウマになった人は少なくないんじゃないでしょうか。



コノ身体ハモウ直ニ腐リ果テル
コウシテ話ス事スラ
儘成ナラナク前ニ
新タナ御柱ヲ立テネバ成ラヌ
新タナ器ヲ今持テ

器



雪景色

雪が降った後の真っ白な世界を描いてみたくてなんとなくしに筆を進めた絵です。その結果なんとなしな感じになってしまった気がします。私が住んでいる地域には雪が降ることはあまり多くは無く、一面の雪原というのを見たことが無いのでいつかそういう地域に行くことがあったら是非拝んでおきたいですね。



作手社

絵を描く時、私は意識的にも無意識的にも土臭い構成をしてしまう癖があるみたいです。家のすぐ近くにもこの絵のような小さな社が数箇所あって、散歩をするたび拝んでいたりするのですがそのせいなのでしょうかね〜(小さい古墳の上に立ってる祠なんてもあったり)子供の頃から慣れ親しんでいる物だと自然に創作物に影響を与えるので面白いもんです。

七々祠

草木に囲まれた長い階段と大量の御柱、そして横には要石。この絵は諏訪子のスベル元にもなっている諏訪七木と諏訪七石がベースとなっています。どこが七つなの!?という突っ込みはNG。もとい勘弁してください死んでしまいます！その七木、七石を廻ってそこにミシャグジ様を降ろす廻漕神事というものがあつたのですが、ここなら廻る必要もなさそうで楽でしょうね。



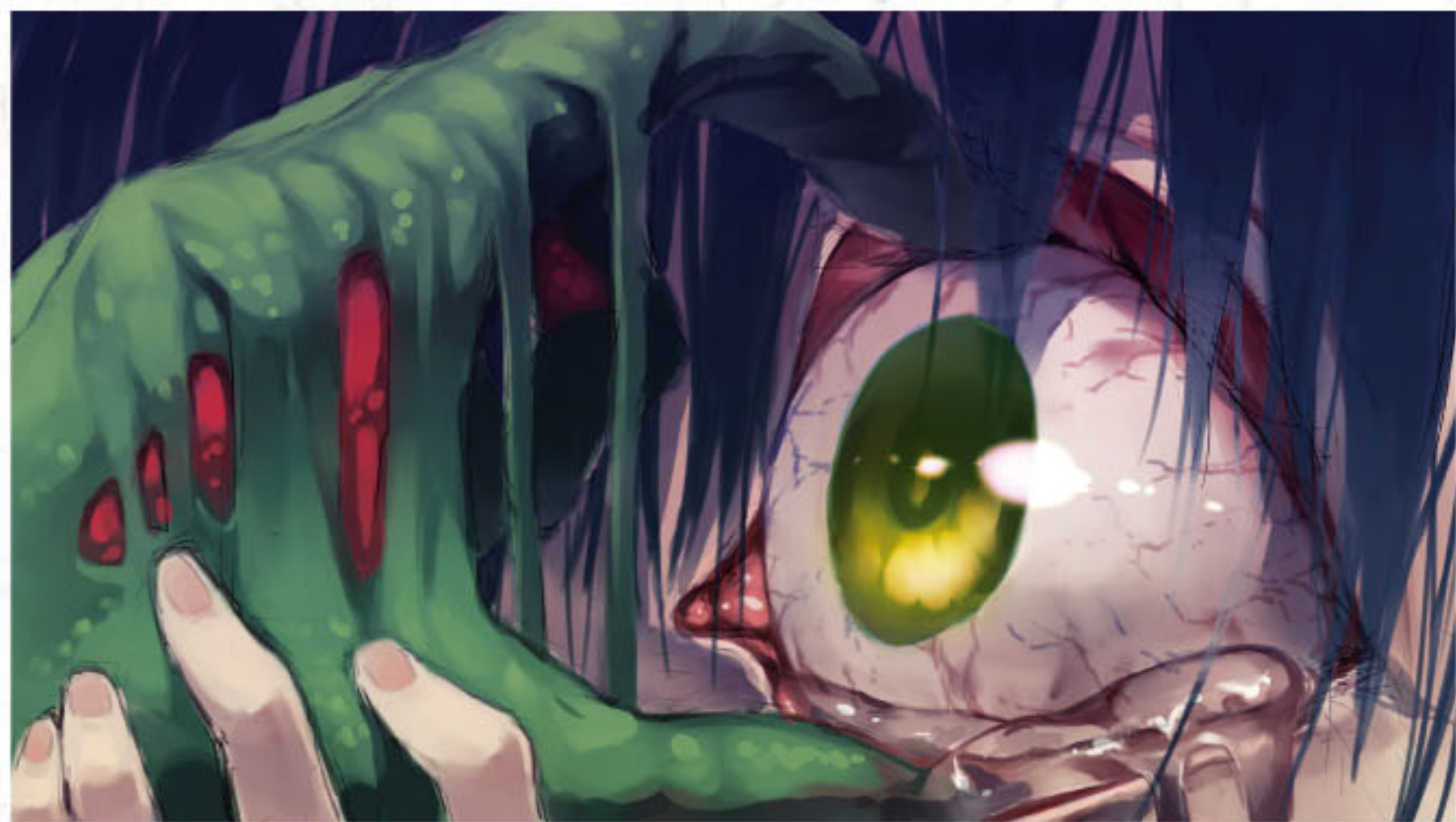
月日は流れ、諏訪子は今日で七つになる。
その日、父と母は大切な話があるからと彼女を屋敷の裏にある山の祠へと呼びつけた。
埃と黴の匂いがする。祠の中は仄暗く、冷たい。か弱い光が抱だけを頼りに手探りで前に進む。
影が暗闇に溶ける。祠は山の断層を割り貫いた作りになっており、奥に進むにつれ小さな水溜りがいくつも見受けられ、足元が覚束ない。
此処には一体何があるのだろうか。

廻り命



一つ目神職

神に近づくために神の目を得るといふ神事。一つ目と言われる所以として、二つある眼球のうちの一つを抉り、神に捧げることで残りの目を神の世界を見る目と成す。本書ではそれを拡大解釈し諏訪子の左目を抉りモレヤ神の持つ目を移植して二つの目を神の目とするより完璧な一つ目神事として表現してみました。



もしも

貴方が神様になれると聞いたらどこまで自分を捧げられますか？今現在私たちが神様に捧げるのは信仰心やお賽銭などの些細なものですがその昔は人身御供といって人身を人柱として神様に捧げる行為もあったと伝承に多く残っています。僕だったら諏訪子と同じく眼位なら……痛そうなのでやっぱり無理です。



一つ目神事

ヨクゾココマデノウツワラ
ヨウイシタ。

おとうさん、おかあさん。

コレナラバイクスウセンノ
トキヲヘヨウトモケガレオ
チルコトモナイダロウ

どうして、何で。

サアミコヨワガマエニザシ
ソノメヲササゲヨ

私は死ぬ。今、此处で。

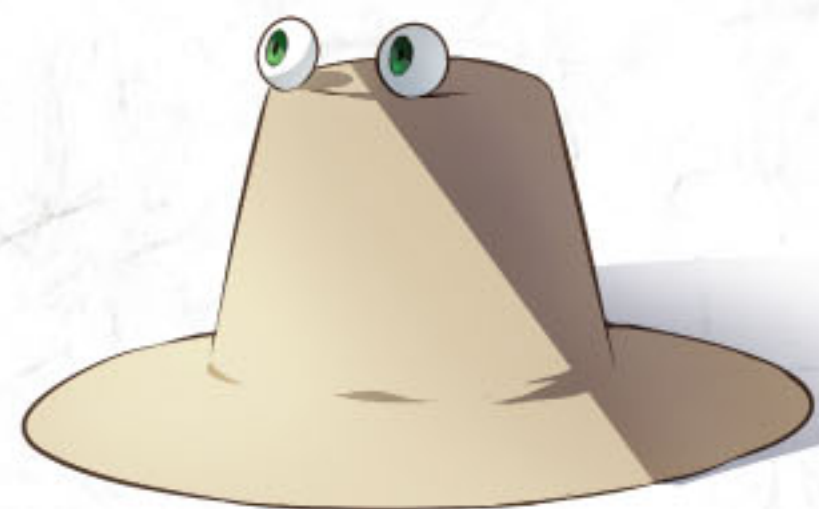
コノヨノトギヲウツスソノ
マナコヲヒトツステマコト
ノヨヲカツモクセヨ

怖い、嫌だ。いたい。

セカイノコトワリノウチニ
イルノダ

一年神主

この神を祀っていた神社では、神官に憑依して宣託を下す神とされた。また一年毎に八歳の男児が神を降ろす神官に選ばれ、任期を終えた神官が次の神官が決まると同時に人身御供として殺されるという「一年神主」の伝承も残る。肉体は神であれその魂は人間である諏訪子にとっては辛いものである。



市松傘

いつの間にか諏訪子の傍にあった奇妙な市女笠。その両眼には彼女と同じく翠色の光を宿している。どこかその瞳に惹かれるものがあつたのか、これから先、肌身離さず身に着けている。

髪の色は溶け落ち
瞳は翠と輝く
私が失ったものは多くとも
私は人が欲しがらる物を得た
今はただ 見得る

神至



洩矢神の御霊。
目の前に居るのは先代の柱。大地と空を翔る神霊、龍脈。此処は私たちの儀式の場。知っている。
記憶の奔流。混濁している意識とは裏腹に、眼ははつきりと世界を写していた。本来人柱に建てるべきは私のような女子ではなく男であるべきだった。
何故、知っているのだ。
嫌、一つだけ解かっていた。私は神だ。



御石神

自然神、そして祟り神としての二面性を持つ。白き蛇のような姿をしており、人々はその強き恩恵に日々感謝すると共に、祟りによる災厄を畏れた。それ故にその信仰は凄まじく、中央、大和の神々をも震えさせる程だったという。

厭われし水竜

川には龍の姿をした神様がいます。自然の中でも川というのは非常に気性が荒く、一度怒らせると土も家も人もすべて飲み込み押し流してしまいます。それでも人は水がなくては生きてはいけず、川の近くに住まなければいけません。きつと聞かん坊の神様に手を焼いていたことでしょうね。



厭い川の翡翠

諏訪の姫川で取れる良質な翡翠。日本全国でも数箇所しかなくその一箇所。姫川はよく氾濫し、そのため危険な川であると厭われていたことから厭い川と呼ばれる。現代では厭い川をもじり糸魚川と呼ばれる。



器は湛え神事は成った
新しき大祝は至り
その御身に力は継がれた
捧げや捧げ
その身心共にしてこの地と共にして
さすれば血絶えぬこと叶ひ
国栄えん事を契らん
されど忘るるな
何時如何なる時もその畏怖を知れ
血族永劫の祈りを持たれよ

巫女装束

東方でよくあるキャラクターの衣装アレンジ。あれを見るたびみんなよく思いつくな〜と感心してしまいます。僕は元ネタや何故何どうしてがないと全然思いつきません！仕事の方でもよくキャラや装飾をデザインしなければならないのですが、なにか良い方法はないかと日々頭を悩ませています。

御神渡り

現在の諏訪湖でも見られますね。この現象自体は氷丘脈（ひょうりゅうみやく）と呼ばれるらしいです。英語ではプレッシャー・リッジという言うそうです！かっこいいですね！湖面が凍結したその後、水が気温の上昇によって膨張してその圧力で割れてまた凍るとああいっただけになるそうです。その様子を神の歩いた道とした昔の人はセンスありますね〜。今では諏訪の神事になっていて、上社の建御名方神が下社の八坂刀売神に会いに行くために歩いた跡という話になっています。東方では神奈子のスベルとなっているので上社の神奈子が下社の諏訪子の様子を見に行ってる〜と考えたりしています。または神奈子の信仰集めのためのパフォーマンス的なところがあったのかも。



水と戯れながら国の行末を想う。

それを鎮める事だ。の地に住まうもう一柱の声を聞き、はつきりと今わかつてる事は、私の役目はこの国を守る事であり、

魂の中には無い。だ。しかし私が求めている答えはこの魂の中には無い。聞かすとも知っている事が多いのは洩矢の御霊がこの身の内に在るからだ。しかし私が求めている答えはこの魂の中には無い。

あの日の夜、先代は姿を消した。

子の形をしているのか。あると云うのに、何故私の身体は女子の形をしているのか。

昔のことがあまり思い出せない。

私は何処へ行くのか。

私は何故選ばれたのか。

代々と洩矢の神は男が勤めるべきで

あると云うのに、何故私の身体は女子

子の形をしているのか。

蒼天

蒼い世界にこそ諏訪子は映えるこの絵を描いて思いました。空や水中の深い蒼の中では諏訪子の白黄藍の彩色ベースは非常にいい！ただこれはビジュアル的な話なのでできればもっと土臭い感じの諏訪子をごにょごにょ……。



たゆたう水海に

水眼川

本来はこんな深さのある川ではなくて、湧き水や小川のような感じらしいのですが、多少はね？水が非常に清らかで美味しいらしいです。もし訪れる機会があったら是非飲んでみたいですね〜。

崇り

御石神の声が聞こえる。贅をと。

人柱を建てる。洩矢の神は代々そうしてこの地に住まう御石神を鎮めてきた。神聞く者とはよく言った物だ。抗いようの無い大自然の化身の声を聞き、その我儘を慰めると言うのだから。

諏訪子自身、身体自体は既に神と化しているが、未だ一つの器に二つの魂が混在している不安定な状態であった。しかし、民草はそれを知らない。

御柱の力は信心で決まる。

それ故に、代々と続けてきたこの忌まわしき習わしを続けなくてはならない有様は辛く苦しい。

今日もまた人柱が建つ。

民を想えば想うほど、神の声が遠くなる。

人身御供

御石神の祟りから逃れたければ人身御供を。いわば人柱のようなものを捧げなければいけない。現代はこういった風習は人形などに変わってたりしますね。ただ、自然の猛威が神の怒りであったと信じられていた時代を思うと居た堪れないです。



神はマヨイを持ってはならぬ
然らば人心畏れを知らず

神はネガイを持ってはならぬ
然らば心願その手を洩れる

神はココロを持ってはならぬ
然らば道に先は無し

何処より守人達の音流る
祭囃子の耳に好く

大社祭り

諏訪子といえば諏訪大社。上社と下社があるのですが僕は断然下社が好きです。あのぶっとい注連縄がないとなんだか諏訪大社って感じがしません。この下社は丁度去年作った本から一年ぶりに描きました。相変わらず神社の構造って意味不です！

あゆみ

スタジオジブリで背景美術を担当されてる男鹿和夫さんの画集を買ったときに、勢いで描き上げたものです。描写や色使いなどこの本に載っている絵の中の多くはその影響を受けています。男鹿さんの描かれる力強い自然達に惹きつけられるが主に残りの画集も買い集め、眺めては溜息をついています。

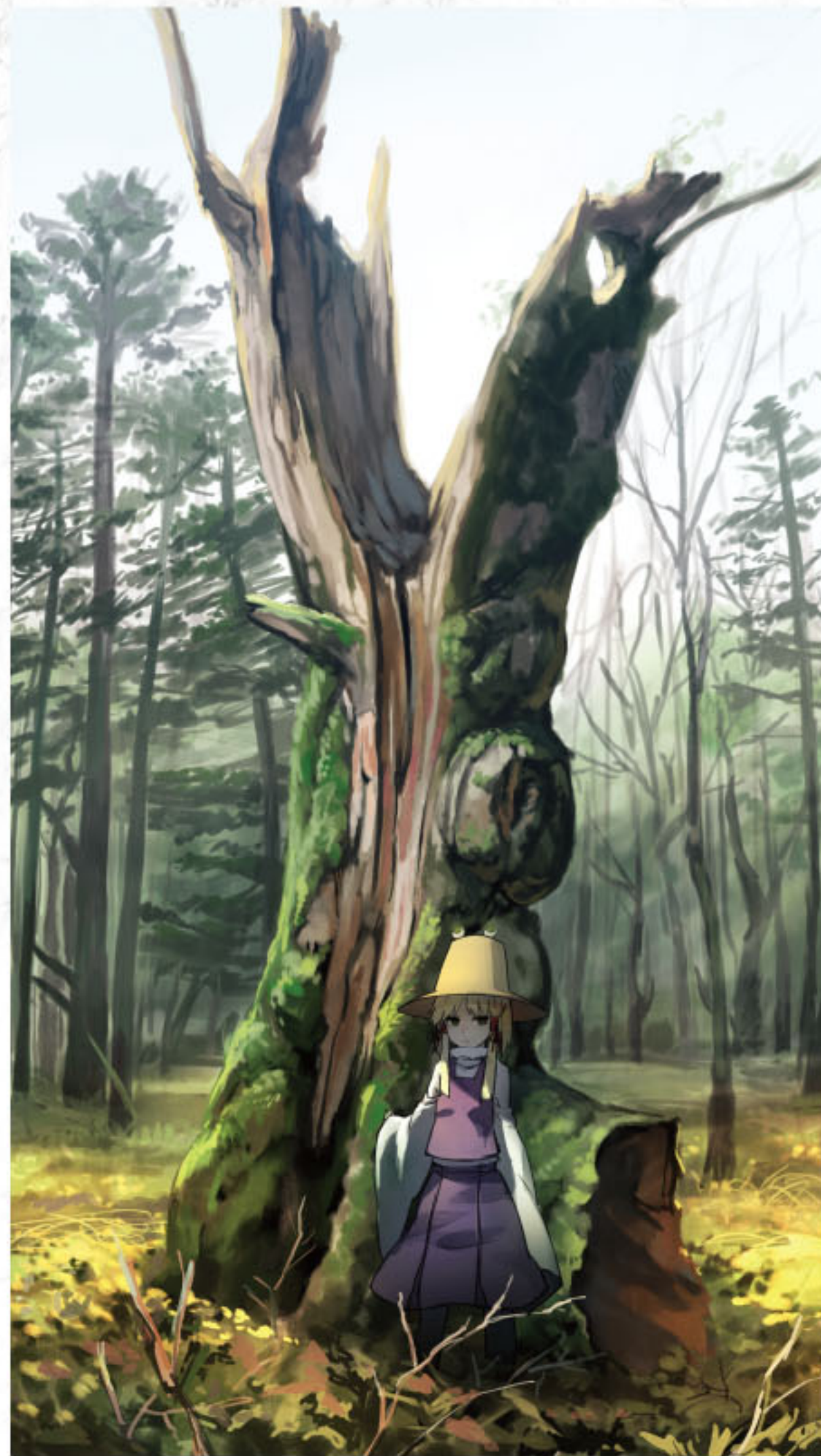


思い出

去年の夏一日一枚絵を描くぞー！と意気揚々と筆を走らせていた時期がありました。上も下もその時に描いたものです。どちらも手が動くままに好き勝手描いてましたが今見ても中々良い空気を出せてるんじゃないかなーって。確かついたーに上げた時初めて 100R を超えて指がぶるぶる震えてた気がします。

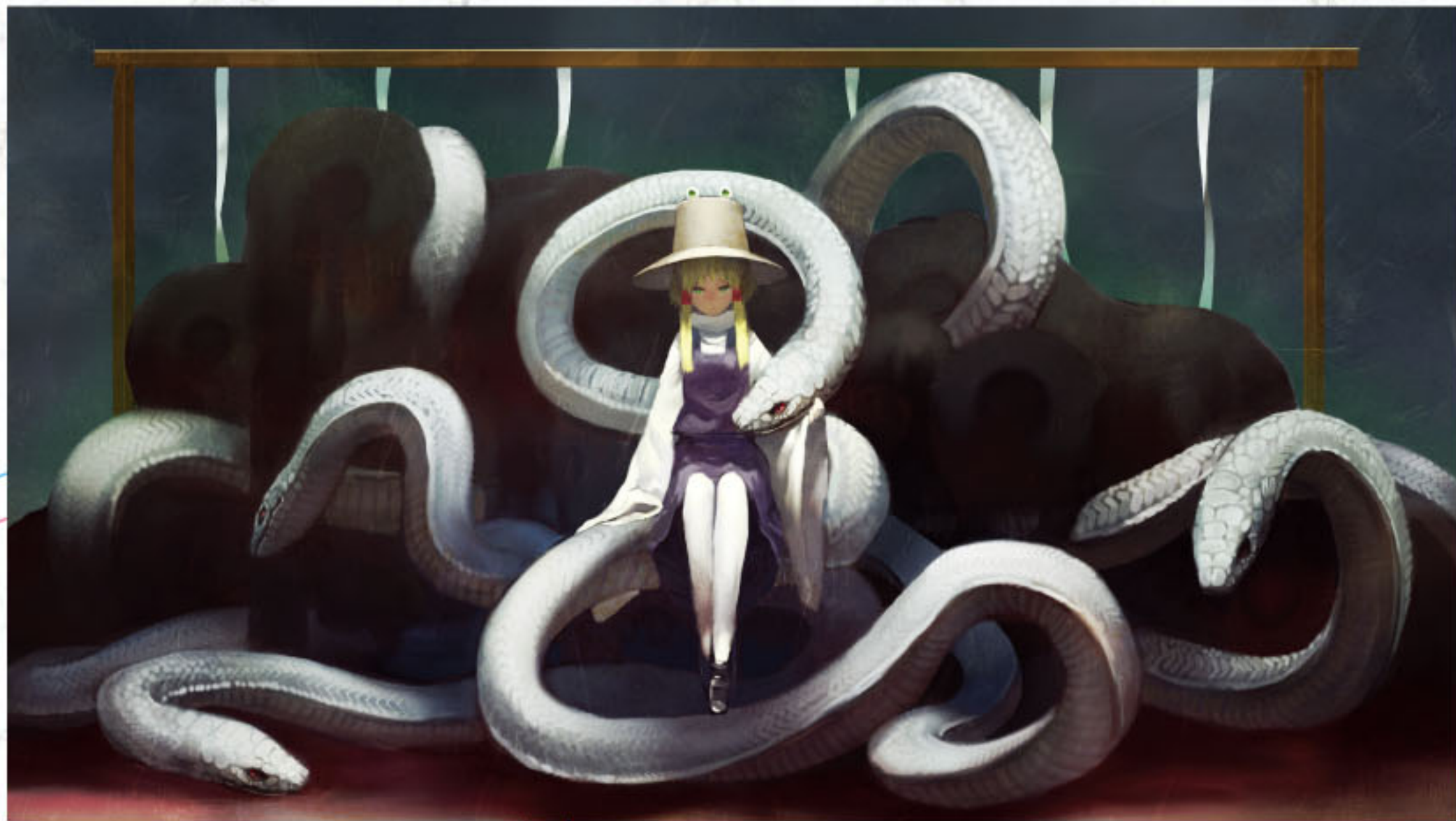
子供は家に帰る。
 そんな当たり前の光景
 から私は目を離すこと
 が出来なかった。
 遠い記憶。
 いつの日だったか、
 自分にも家族が居た。
 そんな気がする。
 家路を急ぐ小さな子供の
 の背中をただ見送る。
 今夜は雨になりそうだ。
 何時からだろうか。
 私には帰る場所がない。

時流れ



苔生す

上の絵は以前撮ってきた写真を参考に書いていたのですが、どうしても素人写真特有の色の浅さに引っ張られてしまって中々と難儀な絵でした。ちゃんと資料に使える写真を撮れるようにカメラも勉強しなきゃいけないかもしれませんね。まっ今はサーフィンすればいくらでも出てくるでしょうけど(笑)最近はずっとPC前の置物と化してるので、時間取れたら実物見ながらゆったり水彩でスケッチなんかもしたいですね。



諏訪の坤

——中央の者が来る。

俄かに国中に広がった噂。
大和では現在、全国の統制と八百万の統率を図らんと企てているらしい。
土着の神々と大和の神々の諍い。
それは古く、脈々と受け継がれて来てしまった血の歴史。

此の地に住まう民草はきつと、剣を手にするだろう。
何故ならば代々と守り、愛してきたこの地を手放す事など出来ないのだから。

ましてや、畏れ仰ぐ神を手放す事も出来はずまい。

大きな戦になる。
そう予感した私は戦の準備を始めた。

洩矢 諏訪子

東方を描き始めてから早六年。僕が諏訪子を初めて見たのはとある絵描きさんのサイトでした。体に傷跡をいくつも作りながらも国のことを思う姿を描いたその作品に一瞬で釘付けになりました。それから原作をクリアし、元ネタを調べ、と僕を東方projectという作品にずぶずぶと沈めていった思い入れ深い子です。そんな彼女は時に飄々と、時にあざとく、時に畏れられるといった様々な表情を見せてくれて、見てても描いてもさっぱり飽きません。……だからそう、みんなもっと諏訪子描こうぜ！



大和の乾

——諏訪の地に大和の神が下りる。

話し合いと言う名の交渉の場は決裂に終わる。大和の神が一柱、八坂神奈子は考えあぐねていた。

諏訪の地は悪鬼魍魎と類を同じくする土着の神が続べ、泥鉄を食らう人の住む灰の国であると聞いていた。

しかし、国はあまりに平和で豊かであり、ましてやまだほんの幼い神が地の神を抑え、国を治めていた。噂に聞く程の神とは到底思えない。

話の筋が見えない。

だが、高天原の決定と命に背く訳には行かない。敵も剣を確かに取った。

今は力で此の地を手にするしかない。真実を得るために。

八坂 神奈子

全国のイーシューターを幾度と無く闇に葬ってきたある意味最強のボスだと思えます。僕もそんな葬られてきた一人で、チクショーと思いプレイしたノーマルで割りと楽にクリアできた思い出があります。神奈子の特徴といえばその背に背負った御柱&注連縄でしょう！これほどまでに「HE・神様」といったデザインは中々ないのではないのでしょうか。そんな神奈子様もこの本では注連縄を搭載していません。何故なら……といたいところですがここはみなさんに答えをお任せします。

最初からわかっていた事だ。
槍剣を振りかざしたとて力の差は歴然。
この地の者達は皆、戦などでできぬのだ。

無理もない。この国の男たちは剣や弓を持つ時間よりも鍛を持つ時間の方がずっと長い。争いや戦い等は遠い国の出来事でしかない、そうやって遠ざけてきた変革。変わることを怖れ続けた代償。

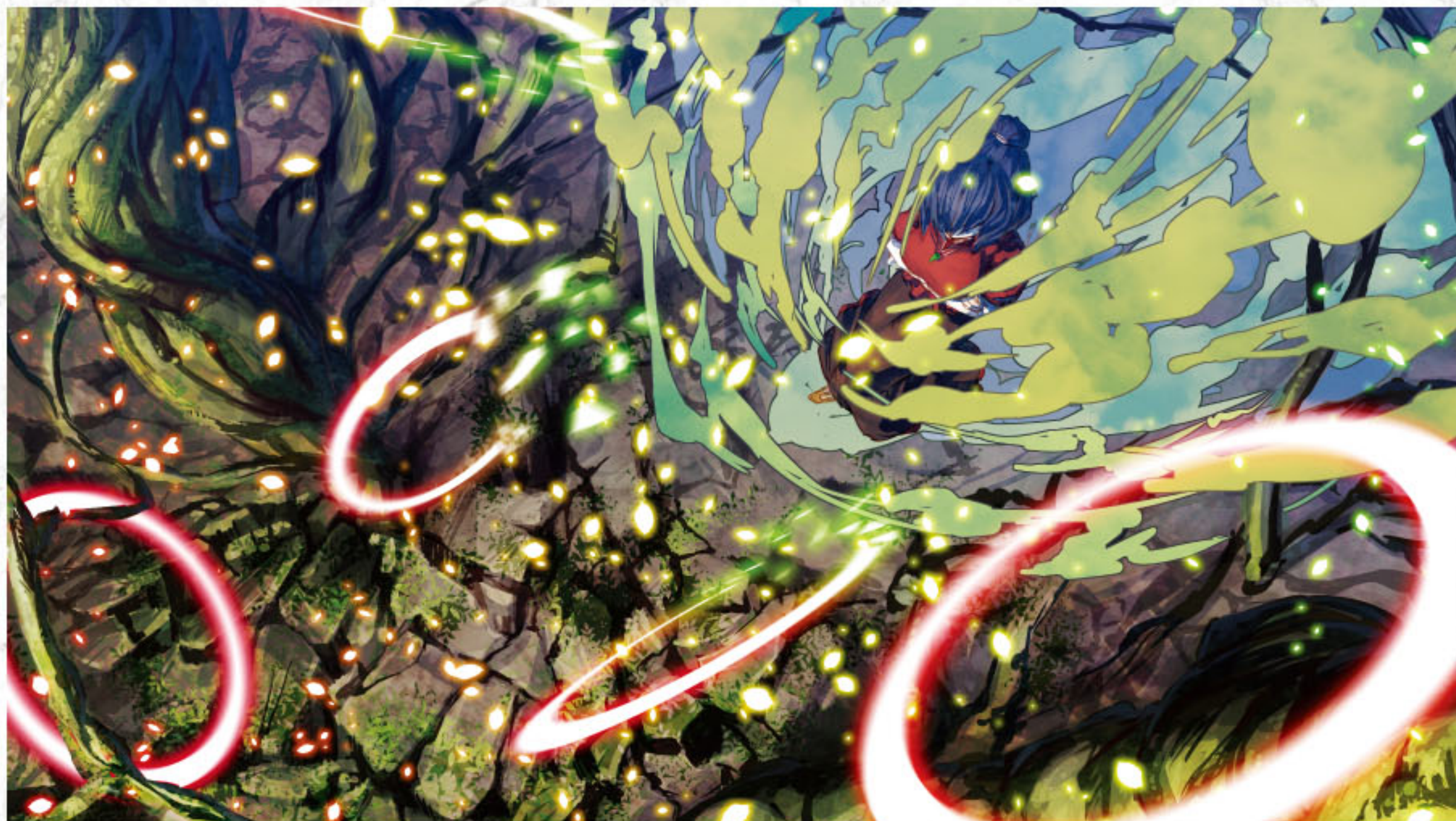
意を決し手にしたその鉄器でさえ大和の神の御業で無力と化した。民草が唯一頼りとする私の神力でさえも相手の方が上。

潰えていく命、滅び逝く故郷をただ眺めている事しか出来ないのか。

長らく耳にしていなかった声が聞える。

力を貸そう。洩矢の神代よ、と。

藤の蔓



アニメーション

本の編集をしている途中『あ、なんか違うアングルの絵欲しい』と思って突発的に描いたものです。アニメーション的な表現にチャレンジしてみたくて背景→キャラ→エフェクトの順番で大体ペンツールで作画しました。煙に関しては適当にベタ塗りでぐにゃぐにゃ描いてからレイヤーを複製し、下のレイヤーの輪郭を数ピクセル増やしてあげることでお手軽に線画っぽく。影を乗せなかったせいかどこか日本画のような味になりました。

望郷



明日からここは、戦場になる。

国中が血気に溢れていた。

此処一ヶ月と言うもの、男たちは水海の底を浚い泥鉄を集めて剣と槍を作り、女たちは獣の骨で鏃と鎧を編んでいた。

聞くに、大和では灼火を用いて鍛えた鉄を用いる。それを描いて戦の話をしたとしても練度が違いすぎる。

この戦に、あの女に勝った所で、大和にはさらに強大な神力を持った者も居るはずだ。争いは争いを呼ぶ。自らの中に居る神を経て朽ちた者たちの記憶が語る。

神聞く。それはこの地の風土そのものである御石神を言い懐けるといふ事だ。しかし、ある時を境に其の姿も声も聞えも視えもしない。

明日は暗れ。そう夕風が啼いている。私は一人の少女を思い出していた。

「神様、私たちは大丈夫だよね」

そう、私は逃げる訳には行かないのだ。

夕の水鏡

田んぼ道、夕暮れの時水面が鏡面反射して写す空の様は無意識的に足を止めさせられます。特に、びたっと一面に水が張っている今の季節だと、まるで飛び込んだらそのまま空に落ちていくんじゃないかと錯覚さえします。絵を描くことに限らず、何かを表現したいと思ったら、ただ引きこもって頭を捻るだけでは到底辿り着けないものがあります。



諏訪大戦

面白い。退屈していた所だ。

其の身代を寄越せ。そう聞えた。地鳴りと共に白い大蛇の姿で現れた御石神は八坂の神が投げ寄越す朱の柱を碎き、藤の蔓を引き裂いて大和の神に牙を剝いた。

八坂神奈子はその毒牙をひらりとかわし言った。そなたがこの国のもう一柱、天地風河の成れ果てか。人の戦はもう既に決した、存分に今は愉しいもう。

諏訪子はそれに異して答えた。何が愉しいものか、大和の狗め。民草の死を何と心得る、手前の相手はこの私だ。

八坂の神は激昂した。

民草の事を真に案じているのか、小娘。其の鉄の輪が一体幾人の血で形作られていると知っての言い様か。ましてや贅の骨で白く染まった蟒蛇に頼らねば何も出来ぬただの飾りの体で何を言う。滅してくれよう。

諏訪子は動揺した。この地に眠る鉄は、今この手で練り上げた鉄は、戦い散った命の成れ果てなのだ。

八坂の神は藤の蔓で諏訪子と其の手に握る鉄の輪を捉え、一瞬で錆と変える。御石神は蔓を噛み千切ると八坂の神を飲み込まんとは口を開け睨んだ。

八坂の神は左手を天に翳し言った。汝らの神代が蛇ならば我が、神代は風天。見よ。地を這う者には到底知り得まい。

空から千朱の柱と万の風が降り注ぐ。

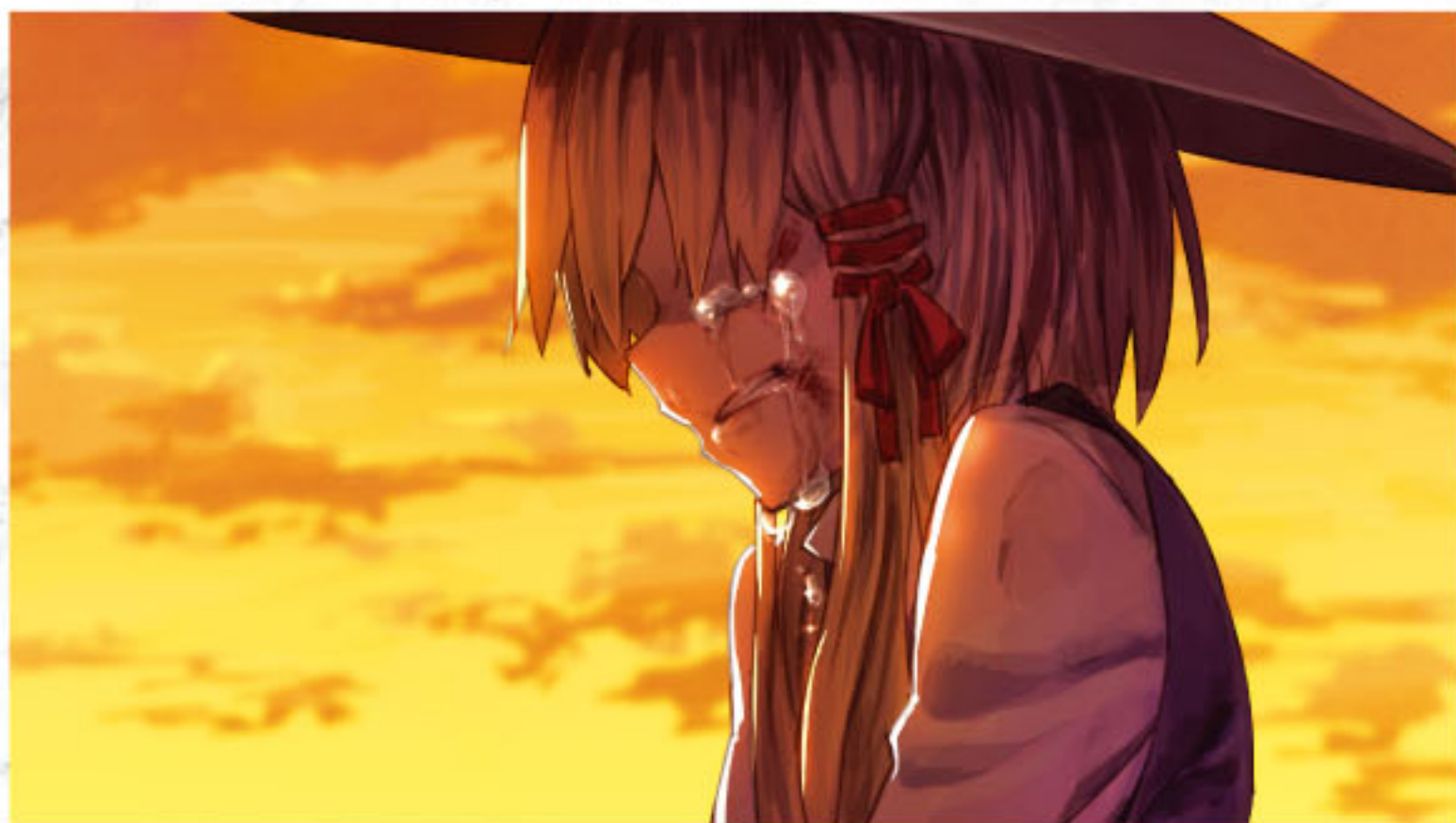
神遊び

諏訪大戦の絵を描くなら絶対に見開きでやりたい！と作業に入った最初の方から考えていました。しかし、イメージがあるのと実際に作れるかは別物で大変難儀させられました。普段の僕の作業は painter12、もしくはクリスタのどちらかで描き進め、最後に色味をクリスタのレイヤー効果等で調整するというものなのですが、この絵はあーでもないこーでもないと言いながらクリスタと painter をいったりきたりしてました。

涙

渡矢繪草子

いつの間にか諏訪子の傍にあった奇妙な市女笠。その両眼には彼女と同じく翠色の光を宿している。どこかその瞳に惹かれるものがあったのか、これから先、肌身離さず身に着けている。



戦いの果てに

互いに大きな勘違いをしていたようだ。

渡矢は戦に破れ、多くの命が散った。ただそれは大和も同じ事。私はただ守りたかっただけだ。

八坂の神は続けて言った。
何云うな。暗に解る。私はこの地を制圧してきた訳ではないのだ。それに、この国の為そなたに消えて貰っては困る。此れからは私が代わりこの国を治め築こう。

未だ現人であったのなら辛かったであろう。だが、これからは私が傍に居る。

もう一人で無理をするな。よくやって来た、少し休め。

嗚呼今は、夕の日差しが目に染みる。



もう行くね



洩矢は中央の支配下へと落ちた。
実権は大和の役人に移り、神座も八坂神奈子
に明け渡される。

施政は反発一分あれど程好く行われ、戦の痕
は少しずつ癒えていく。

しかし、洩矢に永く深く根付いた御石神、洩
矢神への信心は離れず、大和の神への信は得
られなかった。

業を煮やした八坂神奈子は仕官を退け、自ら
政を執り行い洩矢の民草の信心を得る。

其の末、洩矢の亡き人柱の御霊が御石神を聞
き収め、此の地の行末を祈っているとも。

それから幾年。

次第に姿を顕さなくなった御石神、洩矢神に
対する信心は薄れ、人柱を建てる等といった
風習は廃れていく。

願わくば 人の夢をば 守成りと
眠りし月夜の 矢風の如く





postscript

東方を知っていつぐらいからでしょうか。
絶対に諏訪子を題材とした本を作ってやるぜ！と意気込み
右往左往しつつもやっどこさこうして実現することができました。
実はこの本の構成、というか話の本筋のようなものを考えていたのは
去年の中頃。しかし、冬コミに落ち、仕事が重なり気づけば例大祭一ヶ
月前。「あ、これアカンかもわからん」と内心冷や汗だらだらでした。

さて、この項を読んでもらう方がいるということはおそらく無
事発行と相成っていることでしょう。楽しんでいただけたでしょうか。
もし少しでも何かを感じてもらえたなら、とても嬉しいです。

この本の制作にあたって、文字周り、及びレイアウトに多大な協力を
下さったものにさん。元ネタなどの知識面でたくさんのお情報を教えて下
さった！さん。そしてここまで読んで下さった貴方に最大の感謝を！

それではまた次の機会でお会い致しましょう！

——— べにたま

Original : 上海アリス幻楽団様
Written : Appetite / べにたま
Print : Grafic
2013/5/26 Hakureijinija Reitaisai-10
HP:<http://bennitamamama.blog.fc2.com/>
PixivID : 17902
Design&Editorial : RINGOEN / もに

本誌の無断転写・複写・ネット上への公開等の二次利用を禁止致します。

今は昔 洩矢と云ふ国在り
彼の地 山河美しく風風ぎ 豊かなる水海を其の身に湛え
日然り朝目覚め 月然り夜眠る 営みもまた絶えずして遠く
時に菖蒲花開く季の折行先歴す命の秘 目醒めくば
曰く 洩矢の民皆須く 天地風河を神と為して畏れ
其の神聞く者 柱と成りて国を治めん
二柱 其の名を御石神 洩矢神と云ひ
神在りし彼の地 二柱の威恵以って 永劫榮えんと
然らばその果てに至り 鉄の花咲かす御業の群れと
廻る御霊の成れの良きことを願わくば 故に

